

実装技術スキルアップセミナー 「鉛フリーはんだ付け講習」開催報告

鉛フリーはんだは、登場してから既に10年以上が経過しており、はんだ付け技術は一定レベルに達していると考えられていますが、やはり、新入社員の訓練や長期間のはんだ付け作業から離れていた方などが作業に復帰する場合に技術レベルを確認するための実習が必要になります。

このため、京都府中小企業技術センターでは、はんだ付け講習のニーズがあると考え、京都実装技術研究会及び京都府電子機器工業会との共催で習熟者を対象としたはんだ付け講習会を開催しました。

講習の概要

日 時：平成25年11月6日(水) 10:00～16:30

場 所：京都職業訓練支援センター(ポリテクセンター京都)

指 導 者：(株)島津製作所 CS統括部 甲斐治氏(講師兼任)、西野孝二氏

双和電機(株) 製造部 宮本正浩氏(マイクロソルダリングインストラクタ資格者)

品質保証部 古川勝彦氏(マイクロソルダリングインストラクタ資格者)

受 講 者：16名

内容

講義及びはんだ付け実習(はんだ付け基板及び部品は、京都市内の企業様が作業者の技術レベルを評価するためのものを使用)

講義では、「はんだ付けの基礎知識、外観評価」や「はんだフィレットの検証」のテーマで講演をされ、その中で、はんだフィレットの検証では過去に京都実装技術研究会が検討したCAE手法を活用して評価する資料などを利用してわかりやすく解説されました。

実習では、はんだ付け技術が評価できるように工夫がされた基板・部品であることや指導者の視線を感じる緊張感(?)のために、習熟者の方であっても作業開始直後は少し勝手が違うように感じられる雰囲気がありましたが、短時間で仕上げられた方もおられ、習熟者の方のさすがの技術に驚くとともに、京都でのものづくりの底力を見た思いがしました。

仕上がった基板は、指導者が顕微鏡等を使用してはんだ量、はんだの光沢やフィレットの形状などを確認しながら外観検査をしました。また、一部の受講者は、河合一男 京都府中小企業特別技術指導員がマイクロスコープではんだ付け箇所を観察した結果の講評も受けられ、後日、その講評に写真を添えたわかりやすい報告書が届けられました。



はんだ付け作業をする受講者

(報告書)



今回ののはんだ付け講習を受講した方のアンケート結果(抜粋)では、

- ・今まで「こうだ!」と思ってやっていたことが全くの間違ったことがわかり目からウロコだった。認定制度で品質を維持向上したいと感じた。
- ・コテ先からの温度の伝わり方など普段考えずに作業していたことがわかり、大変勉強になった。温度の逃げる方向を考えてコテ先を当てることなど、とてもわかりやすくスキルアップになったと思う。
- ・はんだ付けの外観評価を行っていただき、作業内容の良否がよくわかった。

上記のようなコメントからは、自分のはんだ付け作業について見つめ直す良い機会であったり、他人の評価を受けることによって自分の技術に自信が持てることになったのではないかと思います。

自社以外の方から外観検査とは言え評価を受けることは、恥ずかしさなど辛いものがあるかもしれませんが、自社製品から不良を出さないようにさらにスキルアップさせるために、このような講習会に参加して自分の技術を再確認することも良いのではないかと思います。

なお、講習会の内容は、当センターのホームページに載せておりますので、是非ご覧ください。

最後に、講師の派遣等に快く御協力していただきました(株)島津製作所様及び双和電機(株)様に厚くお礼申し上げます。

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター けいはんな分室 TEL:0774-95-5027 FAX:0774-98-2202 E-mail: keihanna@mtc.pref.kyoto.lg.jp